

コラム①：3月に発生が予想される病害虫について

1 水稲（一期作）移植期におけるスクミリンゴガイの防除対策

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）について、移植期からの早めの対策が重要です。

防除上注意すべき事項

- (1) 貝および卵塊は見つけ次第捕殺する（図1, 2）。なお、捕殺するときにはゴム手袋を着用する。
- (2) 取水口に侵入防止網（目合い6～9mm程度）等を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ（図3）。
- (3) 本田での食害が集中する移植後2～3週間頃から浅水管理（1cm以下）に努め本種の活動を抑えるとともに、薬剤を施用する。
- (4) 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所をつくらない（図4）。



図1 成貝

図2 卵塊

図3 取水口を覆うネット

図4 けい畔雑草の卵塊

2 オクラのトンネル栽培におけるアブラムシ類の防除対策

春先には、アブラムシ類の有翅虫（図1）が多く飛来するため、トンネル内やトンネル除去直後のオクラほ場で急激に増殖することがあります。生育初期に寄生されると生長が著しく阻害されることから、こまめに発生状況を確認し、早期防除に努めましょう。

1 発生生態および被害

- (1) 葉裏、新芽、蕾、幼果など、多くの部位に寄生する（図2）。
- (2) 生長点付近に寄生すると、新葉の奇形や落蕾、芯止まり、生育阻害等を引き起こす場合がある（図3）。
- (3) 多発すると排泄物によりすす病が誘発される。



図1 有翅成虫

図2 葉裏に形成されたコロニー

図3 生長点の被害

2 防除上注意すべき事項

- (2) ほ場周辺の雑草は発生源となるので除去する。
- (3) 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- (4) 土着天敵による密度抑制が期待できる場合は、選択性殺虫剤を使用する。